

福井県LNGインフラ整備研究会 課題検討WG 概要

- 1 日 時 平成28年3月17日(木) 13:00~14:30
- 2 場 所 砂防会館 別館3階「六甲」
- 3 議 題 LNGインフラ整備に関する検討状況の報告等について
- 4 概 要

- ・最初に、フローティング基地検討WGから検討結果の報告があり、国内で導入事例がない浮体式基地については、通常の条件下においてはガス供給が途絶えることは稀だと考えられるが、津波襲来時を含めた安全性についてさらなる検討が必要、との評価が示された。また、維持管理・保守費用については、関連する法規制の整理により変動することから、安全性、法規制についてさらに詳細な検討を行うことが必要、との説明がなされた。
- ・次に、国土交通省から浮体式基地の国内事業化を目指すため、安全評価基準や津波等の緊急時対応指針を策定することを目的に、敦賀港をモデルとした様々な条件(水位、流速、流向、地点等)を想定したシミュレーションのほか、法令面の整理を実施していると報告があった。また、津波等の緊急時対応指針策定に関する調査等は来年度にかけて継続して行っていく、との説明がなされた。
- ・資源エネルギー庁からは、総合資源エネルギー調査会基本政策分科会ガスシステム改革小委員会で議論が行われている、広域的なパイプライン整備に向けた検討状況の報告があった。全体最適的な整備方針の策定に向けては、今後、モデルルートを選定して、費用便益分析等を行うとの方向性が示された。
- ・福井県は、LNGを利活用した産業創出予測調査業務について報告し、県内におけるLNGの需要量を推計するため、県内事業所を対象に実施したアンケートの調査状況等について説明を行った。
- ・出席者からは、LNG受入基地については浮体式基地の導入に向けた国土交通省による調査、パイプラインについては資源エネルギー庁の委員会における検討、といった継続中の調査等の進捗に期待する、との意見が出され、LNGインフラの具体化に向け、関係機関が協力して今後も検討を進めることを合意した。